

ぶつり

発行所 中央大学白門物理学会
〒112-8551 東京都文京区
連絡所 春日 1-13-27 中央大学
理工学部物理学学科準備室
橋田 将
編集人 関根 行雄
電話 03-3817-1767
FAX 03-3817-1792
e-mail hakumon@phys.chuo-u.ac.jp

応援歌 中央大学学友会選定

作曲 古関裕而

憧れ高く空ひろく
理想の光あややなせる
ああ中央の若き日に
伝統誇る白門の
闘い挑む旗揚げ
力中央中央
情熱と力の若人が
精鋭こぞふるふに
ああ中央の若き日に
雄叫ぶ血汐紅は
闘魂たぎる火と燃える
力中央中央

二番目の応援歌として昭和二十三年
に発表。
発表会が開かれた大講堂では伊藤
久男が歌いあげた。
歌詞は学内で一般公募。レコードは
「ああ中央の若き日に」の題名で発
売された。力強くくみくみたるの応
援歌は今も歌い続けられている。

会長就任挨拶

第三期 鶴田 将

昨年の総会において白門物理
学会の二代目会長に推挙されま
した鶴田将と申します。
初代会長は皆さんご存知の通
り昭和四一年卒業の第一期生
である志村元良さんです。「白
門物理学会」は中央大学理工学
部物理学科及び同大学院の同
窓会組織であります。この会の
創立経緯については既に同窓会
会報である「ぶつり」で紹介して
おりますので省略しま
すが、前会長は非常に精力的に
活動され、会をまとめてくださ



印刷から情報コミュニケーション産業へ ワイドな事業展開の大日本印刷 大日本印刷に同窓を訪ねる

最も身近なものは最も目
立たない。

グーテンベルクによる近代
印刷の発明以来、目立たな
く静かだが、めざましい進
歩を続けるプリンティング。
書籍、雑誌に記される「印
刷・大日本印刷株式会社」の
文字には信頼感がある。

会社紹介

大日本印刷(株)、創業一八
七六年、当初の社名「秀英
社」は勝海舟の命名という。
世界最大級の印刷会社。年
間連結売上一兆二千八百
六十七億円。国内外グルー
プ百社では総勢約三、五万
人。(二〇〇〇年三ヶ月)

東京・新宿区市谷(いちが
や)の地、加賀藩の屋敷跡に

数多の町にま
たがる広大な
土地に技術の
粋を集めた超
近代的な本
社、市谷工場
がある。全国

の雑誌類の六割がここで印
刷される。環境度の高いオ
フィスと最新設備の生産工
場、頻繁に出入りする印刷
用紙の納入と完成された雑
誌、書籍を積んだ大型ト
ラックの出入りが目につく。

会社の技術を支える技
術・研究部門は研究開発セ
ンター並びに技術開発セン
ターを中心に研究所、各事
業部の技術部等があり、約
二千六百人の技術者が研究
開発業務に従事する中で、
中大物理学科の卒業生は十
人を数え、第十六期(一九
八一年卒)の佐藤(旧姓 阿
部)さん、斎藤さん、有木さ
んらを筆頭に、生産技術研
究開発と幅広いフィールド
で、今までのDNPをいかに
超えていくかを日夜考え、

いました。本来なら、引き続き
会長職を務めていただくこと
になっていたのですが、病に倒れ、
思うような活動がでないとの
ことで、昨年の総会において辞
任されました。しかし、前会長
は本同窓会の活動に非常に関
心が深く、先日もメールで幹事
の皆さんに「病気が回復傾向に
ある。」旨を連絡されておりま
す。一日も早い回復を会員一
同お祈り致します。

こんな状況下で引き受けた私
は改めて身の引き締まる思いで
あります。しかし、引き受けた
以上は微力ながら全力で頑張
る所存ですので、何とぞ皆様方
の「支援」鞭撻をよろしくお願い
い申し上げます。

さて、白門物理学会は今年で創
立四十年目を迎えます。物理学
科卒業生も第一期から数えて
今年には第三五期となります。
この会が充実した会となるた
めには同期(横)の繋がりが重
要であります。社会に出てから
は先輩、後輩という上下関係は
なく先輩、後輩も同じ社会人
の一員でありますので、後輩諸
氏は先輩に気がねなく話しか
けいろいろ吸収し、飛躍の機会
とし、また親睦の場として活用
することをお勧めします。また、
先輩諸氏はいろいろな知識、経
験を生かし、社会で大いに活躍
されていること存じますので
後輩諸氏に対し暖かい目で接

して頂きながら親交を深める
場として活用されることを望み
ます。

理工学部は現在、後楽園校
舎に高層校舎を建設する計画
があります。この様な一大事業
に対しては卒業生の力なくし
ては達成できません。中央大学
が更なる飛躍を図る意味で、み
なさまの「協力」をお願いするこ
ととなりますがその節もよろし
くお願い申し上げます。
最後に、この会を発展させる
ために、会員以外の卒業生等
にも白門物理学会の活動状況がわ
かるように、インターネットの
ホームページで紹介できるよう、
現在準備中ですので、会員の皆
様は勿論のこと、会員以外の方



中央物理生もDNPの大いなる力

第一線で活躍をしている。

DNPの営業範囲は実
に広い。会社案内をみるとこ
れが印刷の会社かと思う。
あらゆる素材への印刷、ビ
ネスフォーム、包装や建材、
さらにはエレクトロニクス部
材も手がける。まさに生活
総合産業というべきか。
従来からの紙への印刷で
の売上は全体の二十%をき
るといふ。印刷だけでなく
出版の企画にも参加してい
る。ハードからソフトへ今大
きく動き出しているのがI
T分野。情報コミュニケーション産業を
めざす今はさ
まざまなツールを駆使した
ソリューションビジネスで顧

余白

客企業をサポートしてい
る。そして戦後からの「拡
印刷」のコンセプトで新規事
業への開拓に結びつける。
ソフト化傾向で「もの」が
なくなる時代がくるのか、
従来からの印刷が形を変え

ていつてもおそろく印刷の
使命は不変である。「印刷」
という言葉に魅力を感じる
とともにこれを超える言葉
はきつとあると思う。あら
ためて「大日本印刷」の社
名に夢と企業責任感を感じ

じさせたのはわれわれの感
じであった。
ホームページ
<http://www.dnp.co.jp>
DNP

21世紀となった。一昨年
の暮れはY2K問題とか
で随分騒がしかった。何か
大きなトラブルが起きる
のではないかと、シミュラ
作ったり砂漠の真中に避
難したような人まで現わ
れた。まあそこまでしなく
とも「念のために飲料水
を買っておいた」と後に
なつて恥ずかしそうに打
ち明けた人は私の廻りに
も結構沢山いた。にもか
くもそういつた心配は杞
憂に終わつてとにかく良
かった。そんな騒ぎがあつ
たくらいだから21世紀を
迎えるとなればさぞかし
あちらこちらでドンチャ
ン騒ぎがあるのだらうと昨
年の暮れは内心期待して
いた。ところが新世紀は
あつけないほど静かにやつ
てきた。野次馬としては
ささか拍子抜けの感があ
る。それでも昔には過ぎ
去った100年を振り返つた
り、来るべき100年を予
測する本が書店に並んで
いる。お祭り騒ぎをする
かどうかは別として「世
紀」100年という節目
で過去と未来に思いを馳
せるのはそれなりに意味
のあることではある。こ
れらの本はその参考となる。

「世紀」という考え方は
古くからあつたらしいけれ
ど、この考え方が一般的に
なるのはヨーロッパでも18世
紀頃で、「新世紀の到来を
祝う」などという発想が
生まれるのは20世紀(19
01年)のこと。だから「世
紀末」は19世紀になつて初
めて訪れたのだ。「18世紀
の世紀末に人々は来るべ
き19世紀をどう考えてい
たのか」と考えても無駄
である。つまり、100年
と言う単位でこんな事を
考えたというようになつ
たのは比較的近近のこと
なのである。

それにしても100年と
いう区切りは実に絶妙で
ある。50年では短すぎる、
250年では半端であるし、
1000年では長すぎて
想像力を働かせるには相
当のエネルギーが必要にな
る。人間の平均寿命を70
年としてみてこの100
年という区切りは自分の
人生と何らかの関わりを
持つて視野に捉える事が
可能な、程よい長さなのだ。
(だって大化の改新を自分
の人生と関わりを持つて
反省するなんてできそう
もない)さて、我がが生
きた100年である。20世紀
の最初の年1901年に
大英帝国の元首ビクトリ
ア女王が死んで、昭和天
皇が生まれた。ビクトリア
女王の在位は64年間、昭
和天皇の在位も64年間。

毎日新聞の「余禄」を意
識して(？)、我が白門物
理学会の新聞「ぶつり」に
も「余白」欄を作りまし
た。正に、余白を埋める意
気込みで、「名」でも「迷」
でも結構です。記事をお
書き下さい。「余白」欄の
執筆者を募集します。編
集委員に御一報を。

箱根駅伝観戦記

第三期 鴉田 将

学校関係者、在校生、父兄、卒業生あるいは駅伝ファン等にとっても感動の1日でした。

第77回箱根駅伝が正月の2日、3日の2日間に亘り東京の大手町読売新聞社前から箱根町芦ノ湖駐車場入口までの往復大学駅伝競走が行われた。その結果は、皆さん既にテレビや新聞報道等でご存知の通り、順天堂大学が10度目の総合優勝を飾りました。しかし今年の駅伝をなると言っても面白くしたのは中央大学が37年ぶりの往路優勝を果たしたことであります。早速、関東学生陸上競技



連盟発行の区間エントリー一覧表付きの「HAKONE EKIDEN」誌を購入し、スタート近くの日比谷通り沿いに例年同じ場所に陣取っている母校、中央大学応援団のところにいった。風は冷たく手がかじかむ程の寒い日でしたが団長以下総勢12名ほどの団員が一生懸命選手の応援をしている姿を目の当たりにすると寒さも忘れ、思わず「頑張れ」と声を掛けたくなるほどでした。応援団のいる場所では例年お馴染みの顔ぶれに出会うこともしばしばでありましたが、今年も白門43年会のメンバーに会い、新年の挨拶もそこそこに8時スタートの時間を待っていました。

2号1面トップで紹介した藤原正和君がトップの法大と1分10秒差、2位の順大と41秒差の3位でスタートし、今年もダメかとあきらめていたが、苦しい山を登り切った直線に入ったところで先頭の2人を視界に捉えるや徐々に差を詰め、最後は劇的な逆転優勝を飾ったのであります。非常に感激し、思わず「バンザイ！」をしてしまいました。

2日目の復路は順大、駒大に抜かれて総合3位となりました。なお、写真は講談社発行の「月刊陸上競技」2001年2月号から掲載させていただきました。

第三回白門物理学会総会報告

2001年1月20日

第3回総会は、2000年11月18日(土)午後4時から理工学部5号館5235室で、会員約40名の参加のもと開催された。今回の総会式次第は次の通りであった。

1 開催宣言

幹事を代表した総会司会者の鈴木から開催挨拶があり、第3回総会が開始された。

2 議長選出

参加会員からの議長立候補者選出をはかったところ司会者一任となつたため、幹事会推薦の白柳副会長を議長に選出、議長挨拶の後議案審議に入った。

3 2000年度事業報告

志村会長が病氣療養中のため、会長に代わり鴉田副会長から2000年度の事業の報告がされた。

(a)11月27日第二回総会開催
吉村教授による講演会、および懇親会
(b)1月14日幹事会の新年会、

その後幹事会は、毎月開催
(c)4月23日水泳部応援ツアー
(d)6月16日先生を囲む会開催、深井、竹山、杉本先生に参加をいただき、会員18名の参加。

(e)11月3日学科同窓会連絡会懇親会参加
理工学部校舎高層化(17階)案があり来年度に寄付協力をお願いしていること

(f)機関誌発行 1回/年の予定であったが、会員相互のコミュニケーションをはかるため2回/年の発行を行った

4 2000年度会計報告

佐々木副会長(会計幹事)から2000年度会計報告が決算報告書に従い報告された。

5 会計監査報告

関根、飯島両会計監査から、監査の結果問題ないという報告があった。

6 役員の変更

会則8条および9条により新役員の改選が行われ以下の新役員が選出された。

会長 白柳、佐々木(会計担当)杉本、村上

会計監査 関根、飯島
新任幹事 岩佐(篠田1期)、金田(24期)、軽部(26期)、萩原、庄司(33期)、旧幹事はそのまま留任。

7 会長の挨拶
新会長からの挨拶があった。
8 2001年度事業計画
鴉田会長から以下の事業説明があり可決された。

(a)会報発行
(b)新入会員募集
3月の卒業式で新会員の募集を行う。

(c)未納入会費の徴収
入会意志表示後、会費未納者があり本年度会費徴収を進めたい。

(d)先生を囲む会開催
昨年度、葉山寮で開催し好評なため杉本先生の協力に進めたい。

(e)旅行会
(f)理工学部学科同窓会参加
理工高層校舎建設に協力する。

(g)第四回総会の開催
9 2001年度会計予算報告
佐々木会計副委員長から総額¥750,000の2001年度

予算案説明があり可決された。
総会費 ¥50,000
機関誌発行費 ¥350,000
企画補助費(新設) ¥100,000
通信費 ¥200,000
備品消耗品費 ¥15,000
事務費 ¥35,000
また、OB会準備会から本会に以下の寄付があった。

寄付金 ¥127,000(OB会準備会運営金)
10 物理OB会準備会運営金寄付経緯説明
岩佐(1期)さんから、寄付に至る経緯について次のような説明があった。

「横の同期会はすでにあったが、10数年くらい前から、縦のOB会という形で何かやりたいと志村さんなど、各期で持っていた名簿の幹事さん役全部で20期位までに連絡し、集まった。この中でOB会を作る趣旨に賛同した人から資金を集め、公印、会則の草案等を作り、準備活動を進めていったが長続きしなかった。今回こういうOB会が発足するというので何らかの形で協力したいと思っていた。私自身は中央大学に勤めていたこのような会がやられていてという連絡は受け、手渡そうと考えていたが時間がなかったが生かしていただけたのならばと思ひ、今日お渡しすることにした。正式名称は特に無いが、OB会設立準備会から本会に渡すことにしたい。」

11 閉会
杉本先生の閉会の言葉があり総会は終了した。

講演会

総会に引き続き「文明構造を要する暗号技術」という題で辻井重男教授(中央大学理工学部)に約1時間、お話し頂いた。辻井先生は情報理工学科所属で、現在中央大学研究開発機構長の重責もこなしておられる情報通信の専門家、暗号の権威として著名な方である。お話しでは、先生が専門とされている暗号技術のネットワーク社会に果たす役割とそれが及ぼす文明構造への影響が述べられ、この技術によって、我々の現代文明が大きく変革されて行くことが指摘された。特に、現在の暗号技術ですべてインターネットを使った選挙が可能であるとの話は、興味深かった。これは、直接民主主義が技術的には可能となっていることを意味する。また、最近その可能性が指摘された、量子暗号についても触れられた。

講演後、聴衆から活発に質問が出されたが、それに対して丁寧な説明があり、有意義な講演会であった。

第七期 鈴木 立夫 (横浜ゴム株)



卒業後30年たって
在学当時を振り返る
「変わったこと」
「変わらなかったこと」



第四期 菅原 淳二

本会報の編集委員である同期の杉本教授から寄稿を依頼され、締め切り二日前の通勤帰りに久しぶりに教授室を訪ねました。何を書くかまだ何も決まっていなかった。二人で近くの赤提灯へ繰り出し、だいたい飲んで良い気持ちになりながら何を言おうか話した。杉本教授は、書き始めるとその通りにはならず違う方向へ向かっています。それもそのはず、私は飲むと気が大きくなり発想も発散し勝ちになります。こんなところは当時と変わっていません。

私たちがお世話になった先生方も多くは退かれ、教える側、教えられる側の人とカリキュラムは大きく変化しましたが、これは大きな変化ですが、入れば物である校舎5階の廊下の様子は30年前と全然変化はありません。

本会の役員、関係各位のご尽力に感謝しながら、なつかしい方々が沢山載っている会報のバックナンバーを改めて見て在学当時を振り返ってみました。

参考：在学当時の世の中の時代状況を、簡単な年表にしてみました。

65年に入学したときは純心な18歳でした。既に社会生活を経験した何歳か上の同級生も複数おり、多くの友人と共に種々の問題に目覚

めていきました。

世の中は米ソ対立とベトナム戦争激化の中で日本は高度経済成長の時代、1年の冬、学生会館問題の学園紛争が駿河台校舎を中心に始まり、以降毎年冬季に繰り返されました。まだ1-2年の頃は学生側の主張を理解できていませんでした。しかし大衆団交などの大学側の説明を聞いてみると学生側の主張に理があるように思えるようになっていきました。3年になると理工学部でも活発になりました。第1期から第3期の諸先輩はおとなしかったようですが、他方第4期、第5期、第6期は特に意識の高い人が多かったように思いました。このような騒然とした中で学年や科を越えて随分多くの人と議論をし、又先生方とも議論をしました。先生方の研究を大変興味してしました。これは非常に申し訳なく思っていますが、一方そこで得た経験や知識をとおして学んだ最も重要なことは卒業後の人生に必須のものとして大いに役立っています。惜しむらくはもう一つと物理の勉強をしておけば

良かったのですが。当時噴出した諸問題のうち幾つかは解決され、又ある問題は30年後の今日でさえ解決のメドすらなく、又あるものは当時より深刻な問題に発展しているものもあると考えられます。しかし当時学んだ最も重要なことは、「そこに潜む問題を自分の頭で考え、解決のための行動を起こすことの重要性」だと思います。往々にして表面的に見ただけでは問題の本質は隠れており、種々の角度から検証してみることがよくて「まかされず」にすること、難しい議論ではなくシンプルに考えることが重要だと思います。どうやらこの考え方は「物理」の考え方と同じに思えると同時に社会生活のうえでも必須であり、今でも不変なことだと思っています。最後になりましたがこのように有意義な大学生活を送ることができたことに対して今だに先生方や友人に感謝しつつ筆を置きます。

(NECフクトリエンジニアリング勤務)

年表(在学当時の世の中の時代状況)

63(昭和38)年	物理学科1期生入学、ケネディ暗殺
64(昭和39)年	ベトナム戦争本格化、東京オリンピック
65(昭和40)年	日韓条約調印、小生入学
66(昭和41)年	文化大革命始まる、成田闘争開始、中大学生会館闘争開始
67(昭和42)年	美濃部都知事誕生
68(昭和43)年	中大学費闘争、キング牧師暗殺、GNP世界第二位に
69(昭和44)年	安田講堂陥落、東大入試中止、東名高速道路開通、アポロ月面着陸
70(昭和45)年	大阪万博、日米安保条約改定
71(昭和46)年	小生大学院修士修了、1ドル308円
72(昭和47)年	日中国交回復
73(昭和48)年	ベトナム停戦

地球の鼓動に ロマンを寄せて



第三期 大木 丹

「三千五百メートル」。
「三百五十気圧」。
「温度九十度」。
こんな会話を耳にしたのが、三十年ほど前である。明石製作所に入社して約半年、周りが様子がおかしなところから始めた頃のことだ。
当時は、まだ何の事ともわからずに、聞き流していただけだった。
その後約一年ほどして、再び同じ言葉を耳にした。今度は仕事である。あらためて

数字を見直す。三千五百メートルと言えども、十分は充分な高さ、高さで言えば海面から富士山の山頂までである。
こんな深さの井戸の底に、地震計を設置すると言うのである。
その後私の仕事は、高温で連続使用出来る集積回路の選別から始まり、狭いスペースでの配線等々……。
いろいろな難問にも出会い、今もついでに完全と結果の出せないものもある。
「集積回路」と言う言葉もまた、私の入社当時やと世の中に出始めたばかりと記憶している。
入社して間もなく、今までの真空管アンプでも、トランスアンプでもない、理想的なアンプであると言うカタログだけで、私自身半信半疑で使いたった次第である。

学生時代に集積回路と言う言葉も、雑誌等でお目にかかっていたのだが、まだ国内生産が始まりつつある段階で、何種類かの物は市販されてはいたが、自分の手元どころか研究室などにも時々もつぱら展示会でやっと思えることが出来るような物であった。
二ミリの角程の結晶の上に、細かな網目模様にも似たパターンが印刷されたようになっていた。
こんな小さな回路を、九十度から百度もある中で、何年もの間休みなく動作させなければならぬのである。何回かの温度テストを繰り返した。

模擬回路を組んで、温度テストの前後のデータも取った、それらの中から変化の少ないものを。
いくつかの条件に合った物だけを選び出し回路を組む。
組み上げた回路で再度温度試験をしてデータを取る。
データが満足しなければ、他の物で組み変えて温度試験……。何度も同じようなことを繰り返して行なうた。
この様に、組み上がった物と、各部検出器、制御器等を一つにまとめた高温、高圧試験を経る本番となった。
関係者全員の緊張の中で、何事もなく地下三千五百メートルに降下し、三百五十気圧、八十五度の温度で動作を開始したときは、今までの疲れも何処へ行ったかと思われるほどであった。
それ以来、何回かの定期

点検のたび毎に、この時の集積回路が地上に戻ってくる。
各部に分解され、また私の手元に来た時は昔ながらのいい友達にでも会ったような気持ちになる。点検が終わる、組み立てが終わる、工場から出荷するときは、「元気で帰ってこいよ、壊れずに帰ってこいよ」と声をかけたくなる程である。
これまでに幾つかの物は壊れて上がってきたものもある。地上に上がってから壊れたものもある。
これはキャブを外し、何処が壊れたかを確認して写真を取り、プラスチックの箱にしまっておく。長い間良く働いてくれた物もある。いま現在も働き続けている物もある。
大量生産で安く、精度のそろった信頼性のある集積回路、少しでもおかしな所

があるとすぐ交換され捨てられてしまう。
確かに壊れた集積回路は直しようがないのかも知れないのだが。
私のように一本の真空管が、一個のトランジスタが自分の実験回路のどこで働き、あそこ働きの、又こちらに戻ってくるという時代は、とうに過ぎていることに間違いのないであろう。
とすると、温度試験を何度も繰り返して、いま現在もまだ働き続けている集積回路もそろそろ休養を与えてやらなければ、少々かわいそうかな。
トランジスタだって、集積回路だって、半導体も他のどんな部品だって永久部品とは言いきれないもの。

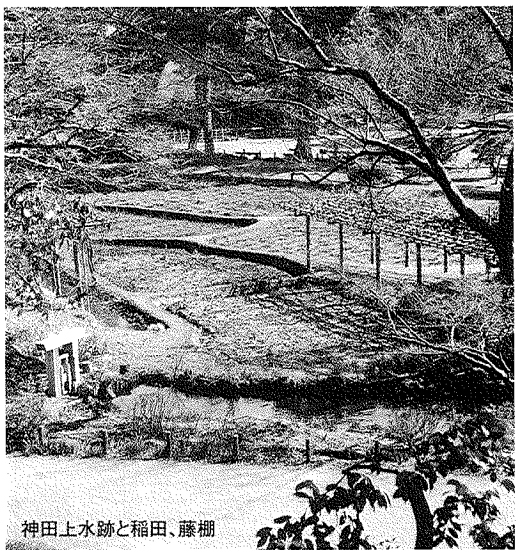
（財）地震予知総合研究振興会

こうらくえん ④

小石川後樂園

清水 正

にぎやかな町後楽園の一角に閑静なたたずまいの庭園、後楽園の土地名の由来となる小石川後楽園がある。理工学部校舎から地下鉄丸の内線をはさんで目の下をひろがる広大な土地は寛永六年（一六二九）、水戸藩主徳川頼房が江戸中屋敷の後園として造営され、その後第二代の光國の時代に完成されたもの。四百年に近しい歴史を刻む「後楽園」の名は宋・岳陽樓記の言葉「先だつて憂い、後れて楽しむ先憂後楽」に由来している。
庭園は池を中心とする廻遊式水庭園で、大きく四つの区域、海・山川・野で構成されている。目をひくものは稲田、内庭、通天橋、月橋、白糸の滝など。震災や戦災で壊されたものもいくつかあるが、いまでは見事に美しさをあらわしている。稲田では



神田上水跡と稲田、藤棚

ころ。じつはこの校舎には一時理工学部の前身・工学部があった時代もある。季節の移り変わりによる草木の趣きもすばらしい。春、梅、桜、夏、花菖蒲、はす、秋、紅葉。鳥たちの楽園でもある。訪ねたときは奥の梅園が満開、カメラマンが思い思いの撮影を楽しんでいた。後楽園遊園地の喧騒を忘れてこの静かな空間でひとときを過ごすのも命の洗濯になる。

大学院生活における 十五の勘違い



第三期 深山 大元

動機不純
「一、博士になりたいと子供のころから思っていた。」と言ったかと思ったら、二、就職活動が恐かったから。三、四年で卒業できるのは七割程度」と大学の入学式のときに聞いて青くなつて勉強しすぎて、大学院への推薦をいただいたから。大学院に進学した理由はどれだったかな。
入院

指導教授

卒業研究では香取眞理先生に、相転移の理論を教えていただいた。難しく、私の手におえなかったことで、大学院では、中野徹先生の研究室で勉強することに決めた。そこでは、比較的得意の計算機シミュレーションを生かせると思ったからだ。入学試験の面接のときに、研究室を変える理由を問われた。「中野先生の笑顔が素敵なので」と答えた。
中野研はもともと計算機を苛めている。計算機室が我々の研究室。失敗も成功もすべてはここから。
コピー

まず覚えたことはコピー

ヒールの入れ方。中野徳和さんに、ドリッパ式の入れ方を教えていただいた。お湯を注ぐ技巧に芸術さを感じた。島川陽一さんには、コピーにただお湯をかければよいと教えていただいた。私は救われた気分であった。
来客
計算機室には、計算機の使い方などを聞きに、先生も含めて来客が多い。お茶やコピーを出して、会話をする。私は素晴らしい部屋で研究していたのだ。

授業

香取先生の授業では、毎週のように式の導出のレポートが出題される。竹山協三先生の授業は輪講。さらにいくつか授業があり、中野研の輪講の準備にも追われ、いったい、研究はいつするののか。
散歩
都心の散歩が楽しい。距離は四キロ程度。すこし速いかなと感じるテンポで歩いて、空を見上げると、進まない研究から来るストレスが癒される。
食堂と生協
昼食と夕食は、ほとんど教職員食堂。大抵は、ライスと豚汁と納豆。安い、生協にも、一日に一度は行く。雑誌の立ち読みをして、おやつを買う。食堂や生協のお姉さんにも、顔を覚えられた。よい印象を与えていない可能性はあるから、きまりが悪いけれど、毎日の挨拶とスマイルトークは、楽しかった。
パーティ
新歓コンパ、忘年会、修論発表会の打ち上げなど、年

に何度かパーティをする。

パーティは三時間程度と長い。学生は座るが、教授は座らない。頭も違えば、足も違う。
ものまね
同期の野々下渉君は、どの先生のものまねも上手だった。彼は今、高校の先生である。なお、計算機室には最大で同時に五人の松下貢先生が出現した。
アルバイト
物理学演習と実験の補佐をした。指導は厳しく、採点は甘くしたのだが、評判はまあまあよかったよう。期末試験の監督もした。見回りをしていると、縮小コピーを繰り返してつくったのか、細かい字がびっしりと書かれた紙切れが落ちていた。学生は困った顔をしていたが、私も困った。

学会で発表

物理学学会で何度か発表することができた。日本中のいろいろな大学の学食めぐりができる。そして、研究仲間ができる。デビューは琉球大学。残念ながら、新しい友人はできなかった。学会の後、一人で رفتる平和記念公園の近くのバス停で、沖縄の優しいおじさんと親しくなった。
うれしかったこと
学会や研究会で誰かが発表をする。中野先生が、講演者に質問をする。その質問が私の考えていた質問と同じだったとき、うれしかった。
甘美な時間
世界中で私以外は誰も知らない事実を見つけてしまったとき。今までに十五回。

卒業

博士課程三年のとき、国際会議でノベルトに出会った。彼は、研究について議論できるはじめての友人であつた。年齢も身長も私と同じ位だったからか、自然と仲良くなった。会議の開催期間、毎晩、彼と乱流について語り合った。私は大学院を卒業して、乱流の研究から離れることが決まった。彼との縁は遠くなるのだから。
（二〇〇一年三月博士課程終了）流体力学で博士号を取得。現在（株）情報数理研究所勤務

会費の納入についてお願い

「白門物理学会」の活動も少しずつ形になってきました。これも、会員の皆様から格別のご配慮の賜とありがたく思い、厚くお礼申し上げます。
さて、活動の基となります「白門物理学会会費」の納入につきまして「口座振替」の利用をお願いしておりますが、銀行・郵便局の「振込」でもお受けしますので宜しくお願いします。
白門物理学会 佐々木（4期）
記
通常会費を希望の方 金 三,〇〇〇円也
終身会費を希望の方 金 三〇,〇〇〇円也
金 三〇,〇〇〇円也
【振込先】
郵便局を利用される方
〒100-0040
東京都千代田区千代田
白門物理学会代表者
住所 文京区春日 一〇一五五
中央大学理工学部物理学科内
銀行を利用される方
店番 231
口座番号 0691988
名前 白門物理学会代表
佐々木文三
なお郵便局並びに銀行の預金口座から、自動引き落としを希望の方、その他不明な点は会計（第四期）佐々木 f.sasaki@oeganet.ne.jp までご連絡下さい。

会員名簿を眺めて



黒沢 達美

中大物理の発足したのが一九六二年四月、第一期卒業生を送り出したのが六六年、六八年頃に一度同窓会があったが、それ以後物理としてのまとまった同窓会組織は仲々できなかった。しかし私自身が、自分の出身校の同窓会活動などに余り関心をもたなかったで、別段気にもとめなかった。それが三分の一世紀ほどたった九八年十一月、白門物理会の創設となり、私も一席弁する榮を与えていただいた。関係者諸兄姉のご努力に敬意と謝意を表したい。その後会も順調に発展しているように、この拙文がのるのは多分四号ということになろう。

ところで第一期卒業生が生まれたか生まれないかの大き、カストリ雑誌というのがあった。カストリは当時の粗悪な密造酒で三合(五四〇ミリリットル)呑めば潰れる、それと同じく三号で潰れるきわものの雑誌がカストリ雑誌だ。「ぶつり」というやうな四号は現実のようで、願わくはますます発展して、一斗一升五合となる位まで続いて欲しいものである。ついでのクイズだが右の酒量を何と読むか。一つだけヒント、真中の二升は升升(ますます)と読みます。

ところで創刊号についている会員名簿をつづくと眺めた。なつかしい名前がいくつも出ている。これをタネにしただけでも一文書けそう。しかし当然出ていそうな名前がないし、卒業生全員に比べるとはるかに少ない。もつと増えることを期待する。目につくことは一般に初期の卒業生ほど組織率の高いことだ。これはよく理解でき

る。私も近頃同窓会の口がかったり、出席することが多くなった。卒業して二、三十年間は仕事(や家族との生活に忙殺されているが、そろそろ一息つく年輩になると旧友を想い出す、ということであろう。白門物理会の創設が九八年になったのもそんな理由かと思う。だから今の所あまり関心を示さない若手も、時が来れば次々と加わってくるだろう。それにもかかわらず、どの期にも最低三人は入っている。これは幹事の勧誘のたまものと思う。苦勞をお察しする。さらに私が注目したのは、前期のような一般の傾向の一方で、最近数年間の卒業生からもかなりの人数が参加していることだ。特に三十期が多い。

というのは、長らく物理学科の学生とつき合ってきた、近頃ちよとした(あるいは大きな)変化が気になっているからだ。中大物理での数十年間、私は卒研生を始め学

生たちと機会を捕えては一盃やるのが楽しかった。ふだんの輪講や試験などで大分絞った罪にほしてもある。学生諸君もまんざらいやでもなかったようだ。最盛期には他の研究室からの客人も大勢参加した。それが九十年代の中頃から急に変わった。コンパを呼びかけても、関心を示さない学生や口実を設けて欠席する学生が増えてきた。クラス担任のとき粗餐を用意してお待ちしていたが、一人も現れなかったこともある。院生に声をかけて片付けてもらったが、こちらも年寄りになったので、面白くないのかとも思った。しかしどうやら他の卒研グループでも事情は同じらしい。一号館五階の輪講室では、一時期盛大な焼肉パーティーが開かれたりしていた。よばれて顔を出したこともある。それがほ、同じ頃からバタリと止んだ。やはり声をかけても乗ってこないのだそうだ。退職後の最近二年間はど

なっているか知らない。もし長く続くようだと薄気味の悪い現象である。中大に限ったことではないが、物理の学生は一般に入づき合いのよい方ではない。理系より工学の方がつき合いはよいようだ。これが白門物理会の発足に三分の一世紀ほどたった一因であろう。それでも以前なら誘われれば応じるのが普通だった。一体どういうことだろうかと気にしていた。しかし名簿によれば、最近の学生でも先輩に誘われ、は会員になることが分かる。これは多少気休めになる。大抵人間の気質は時代によつてやたらに変わるものではない。多分就職のきびしさなどの影響が大きいのだろう、と思いたい。とはいえ気になる。やはり先輩の影響は仲々大きいようなので、中大伝統の家族的情味で後輩をひき立てて下さることをお願いしたい。

(中央大学名誉教授)

『ハンバーガーとレンコンパワ』

第一期 関 吉郎

「がんばってください」「ありがとう」

ここはJR長野駅前ビル5階、受付嬢から声をかけられた。せまい部屋に入ると、両側の壁にそつてなんとm&eのパソコンが10台並んでいるではないか。20代から30代の若者がパソコンに向かってる。ここは夕方6時30から9時30分まで、週に2日通つて、5ヶ月になる。

私は家業の材木屋をやめて、20年来やつきた住宅建築と内装工事をSOHOで始めて3年になる。近頃の世

情を考へて、ホームページ(H P)作成の講座を受講することにしたのです。

受講の相談に行った時、少しハードですよ(多分その年齢ではという事、と念を押されたが、気にもとめませんでした。

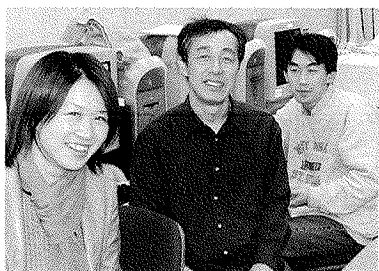
H T M L タグ(H P 作成の簡単な語句)の講義が終了すると、パソコン上でイラストや画像作成ソフトの学習に入ります。基本操作のテキストはあるのですが、短期講義なのでサンプルを作成しながらの実習です。先生の操作をスクリーン画面で見ながら、真似て自分のパソコンを動かします。m&eのマウスは大幅餅みたにまん丸なのでつかみ直した時に

マウスの方向が定まらない事がしはしばしばです。操作を間違えたとんでもない画面が現れてきます。まづこいているとスクリーン画像が先に進み変わつていて、バックにおちいります。私の隣はと見ると、右のお兄さんはユウウと、応用操作までやっていてではないか。この20代の若者は印刷の仕事でパソコンをやつていてコンピューターのグラフィックデザイナーを目指しています。左の20代の娘さん(お嫁さん)はと見ると、順調に進んでいきます。彼女は仕事ではキヤドを操作していてH P 作成の技術を身に付けて仕事を広げたいようです。家にパソコンが無いというのにノートを取っただけ

で、聞いた事は忘れないようです。私はというと、後で思い出せないで、一生懸命にメモを取つていくと、スクリーン画像がいくつも先に進んで行つて、訳がわからなくなつていきます。とにかく、先生の講義が瞬時に理解できないといつていいかもしれません。このソフトはアメリカの若者達がハンバーガーを食べながら創つたと言つてはいいか。ワシも駅前のマクドナルドで85円のそいつを食べてきたのに何たる事だ。ア、ワシの脳ミソはレンコンになったのか、つかい穴がグダグダあいている。レンコンは穴がウメの。穴のうまみを出してやるゾ。家で復習をしていくと、次回は又新たな項目へと進んで行き

なつていくか知らない。もし長く続くようだと薄気味の悪い現象である。中大に限ったことではないが、物理の学生は一般に入づき合いのよい方ではない。理系より工学の方がつき合いはよいようだ。これが白門物理会の発足に三分の一世紀ほどたった一因であろう。それでも以前なら誘われれば応じるのが普通だった。一体どういうことだろうかと気にしていた。しかし名簿によれば、最近の学生でも先輩に誘われ、は会員になることが分かる。これは多少気休めになる。大抵人間の気質は時代によつてやたらに変わるものではない。多分就職のきびしさなどの影響が大きいのだろう、と思いたい。とはいえ気になる。やはり先輩の影響は仲々大きいようなので、中大伝統の家族的情味で後輩をひき立てて下さることをお願いしたい。

(中央大学名誉教授)



(有)ヒラオホーム

活動報告

- 1.2000年度の活動
毎月 幹事会
1999年11月27日
第二回総会、講演会、懇親会
講演会「中大水泳部の強さの秘密」
水泳部監督 吉村豊
2000年3月24日
会報「ぶつり」2号発行
卒業生新入会員募集
2000年4月23日
水泳部応援ツアー(東京辰巳国際水泳場)
2000年6月16日
白門物理の集い(先生を囲む会)
深井先生、竹山先生、杉本先生、会

- 員18名
2000年10月20日
会報「ぶつり」3号発行
2000年11月3日
学科同窓会連絡会懇親会参加
理工学部校舎高層化(17階)案があり来年度に寄付協力をお願いがでていること
1999年11月18日
第三回総会、講演会、懇親会
講演会「暗号」
情報工学科教授 辻井重男

- 2.今年度の事業計画
(1)毎月 幹事会
(2)会報発行 年2回
(3)新入会員募集
卒業式で新会員の募集を行う
(4)未納入会費の徴収
入会意志表示後、会費未納者があり本年度会費徴収を進めたい
(5)先生を囲む会開催
昨年度、葉山寮で開催し好評なため杉本先生の協力で進めたい
(6)旅行会
(7)理工学部学科同窓会参加
理工高層校舎建設に協力する
(8)第四回総会の開催

お知らせ

白門物理の集い
——先生を囲んで一晩語り合う会——
「白門物理の集い」の第二回が中大葉山寮で開催されます。昨年は大変好評を得ましたので、今回はそれ以上に盛り上がりたんと存じます。皆様お誘いの上、多数ご参加くださいますようお願いいたします。
なお、開催日は6月を計画しておりますが、日にちが現在のところ予定です。詳細については問合せ先にお訊ねください。
場 所 中央大学葉山寮
〒240-0112 神奈川県三浦郡葉山町堀内86
電話 0468-75-0009
日 時 6月15日(金)〈予定〉
午後6時現地集合、一泊
問合せ先 中央大学物理学科 杉本秀彦
電話 03-3817-1767/1786

編集後記

会報「ぶつり」4号です。原稿をお寄せくださいました方々、お忙しいところありがとうございました。
今回の会社訪問は大日本印刷株式会社でした。社と対応いただきました方々に御礼申し上げます。箱根駅伝では中大が活躍しました。特に往路では奮闘が目立ち来年度への期待がふくらみます。シリーズ物として、「先生談話」の第一弾を掲載しましたが、次回から「物理最前線」も計画しております。
編集作業で一番大変なのは、やはり原稿集めです。委員もそれなりに考えているのですが、皆様の企画提案や寄稿によって支えられています。原稿が多ければそれだけ紙面が充実し、格調が高くなるのではないのでしょうか。この会報が幅広く意義のあるものになり、会の活性化の一助になれば願っています。
委員会の内部では多少席変えがありまして、前任委員長錫田が会長に就き発行人となったため、関根がその席に移りました。しかし顔ぶれは前回と変わっておりません。よろしくご支援のほどお願いいたします。

編集委員長 関根行雄
編集委員 杉本秀彦、佐々木文三、吉川秀雄、鈴木毅則、庄司靖久、萩原幸徳
顧問 清水正

会計報告

平成12年度会計報告(決算案)		平成13年3月16日	
期間:平成12年4月1日～平成13年3月16日		(予算)	(決算案)
収入の部		4,204,508	4,660,339
会費	終身会員会費	0	294,000
通常会員会費		105,000	120,000
雑収入	寄付、利息等	2,000	148,831
繰越金		4,097,508	4,097,508
支出の部		750,000	339,466
総会費	謝礼、花代等	50,000	77,761
機関誌代	印刷費等(2回分)	350,000	155,610
通信費	案内状、会報送料等	200,000	63,405
企画補助		100,000	30,090
備品費	ゴム印等	5,000	0
消耗品費	事務用品等	10,000	0
事務経費	MBS手数料	35,000	12,600
繰越金		3,454,508	4,320,873

雑収入:準備会からの寄付等 機関誌代:支払い次年度に繰り越し
総会費:謝礼アップ等 企画補助:物理の集い他

平成13年度会計報告(予算案)
期間:平成13年4月1日～平成14年3月31日

収入の部		4,427,873
会費	終身会員会費	0
通常会員会費	35名	105,000
雑収入	寄付、利息等	2,000
繰越金		4,320,873
支出の部		890,000
総会費	謝礼、花代等	80,000
機関誌代	印刷費等(2回分)	500,000
通信費	案内状、会報送料等	150,000
企画補助		135,000
備品費	ゴム印等	5,000
消耗品費	事務用品等	5,000
事務経費	MBS手数料	15,000
繰越金		3,537,873

会計 佐々木文三(第4期)

役員紹介

第三回白門物理総会で、会長以下役員が改選され、会の運営を進めて行くことになりました。ここにご紹介をいたします。			
会 長	錫田 将(第3期)	志村 元良(第2期)	第10期 石渡 栄一
副 会 長	白柳 勝(第2期)	白柳 勝(第2期)	第11期 植田 悦子
会 計	佐々木 文三(第4期)	加藤 均(第3期)	第12期 河内 麻起子
会 計 監 事	関根 行雄(第5期)	錫田 将(第4期)	第13期 田中 容子
幹 事	飯島 章男(第13期)	佐々木 文三(第4期)	第14期 飯島 章男
第1期 若佐 篠田	大沢 規人(第7期)	杉本 秀彦(第4期)	第15期 野水 光男
	鈴木 立夫(第5期)	大栗 宏文(第6期)	第16期 光司
	中村 研一(第6期)	関根 行雄(第7期)	第17期 大川 武夫
	根本 裕介(第8期)	鈴木 立夫(第5期)	第18期 喜一
	倉繁 正和(第9期)	中村 研一(第6期)	第19期 幸夫
	山口 徹(第10期)	根本 裕介(第8期)	第20期 和之
		倉繁 正和(第9期)	第21期 幸広
		山口 徹(第10期)	第22期 幸広
			第23期 幸広
			第24期 幸広
			第25期 幸広
			第26期 幸広
			第27期 幸広
			第28期 幸広
			第29期 幸広
			第30期 幸広
			第31期 幸広
			第32期 幸広
			第33期 幸広